

小樽別院だより

発行所
本願寺小樽別院
小樽市若松1丁目4番17号
〒047 TEL0134-22-0744
編集・発行人
教重文雄

“小樽に念仏の
友垣の輪を
ひろめよう”

宗組 親鸞聖人報恩講をお迎えして

輪番 教重文雄

本年もはや報恩講をお迎えいたすこととなりました。宗祖親鸞聖人のみ教に生きる私たちが、聖人のご苦労に感謝し、ご恩に報いるための年に一度おつとめをする大切なご法事でありませう。

漸く秋も深まり冷気ただよう中で聖人のご苦労を偲ぶと共にご恩に生かされる意味を味わうのも報恩講で

あります。

聖人のご一生については、いくたびくり返し聞いても味わい尽きません。ご幼名を松若丸とも呼び、八歳までに両親に死に別れ、お得度は桜の花も散るころでしたが、それから後は、寒い吹雪の中から聖人のお姿が浮んできます。聖人は九歳の時出家して比叡山に

登られ、悟りえの道を真剣にあゆまれました。しかし人間の心の底にひそむ、煩惱をどうすることもできず、遂に二十九歳の時、比叡山からおりてこられました。そして法然上人が説いておられました、だれにでもわかるやさしい念仏の道を聞かれたのです。その時聖人は、わが力をたのむ自力の心は、自分の本当の姿を知らない思いがあつた恐ろしい心だと気づかれました。そして、自分のすべてを見抜かれた上に呼んでくださる阿弥陀さまの「まかせよ、救う」の仰せをすなおに受けとられ、念仏一すじに生きて行かれました。



親鸞聖人
鏡御影

聖人のお姿が、あたかも鏡にうつしたようによくえがかれているのでこの名がある。墨一色の簡素な線描画であるが、その筆致はきわめて力づよく、よく聖人の風格をあらわしている。像高28センチ余。専阿弥陀仏の描くところである。

(本派本願寺蔵)

聖人が八十四歳の頃でした。関東からお同行たちが、京都の聖人を命がけてたずねてこられたことがありました。その時聖人は「親鸞におきては、ただ念仏して弥陀にたすけられまいらすべしと、よき人の仰を被りて信ずるほかに別の子細なきなり」と、その信仰のありだけを告白されました。なぜ聖人が「私はただ念仏して行くのだ」といわれたのでしょうか、それはよき人法然上人の仰せと

子の縁を切るといったことまでなさいました。私たちは、報恩講をご縁として、聖人のご苦労をしのびながら、深く本願念仏のみ教を信じ、また他の人びともこれを伝えていかなければなりません。これこそ最も大切な御恩報謝でありませう。 合掌

報恩講法要行事日定

(一) 期日、十月十二日(火)、初連夜法から十六日(土)、満日中まで、

(二) 法要次第

○お晨朝：午前六時(十六日は六時三十分)

○日中……晨朝に引きつづき、十六日は午後一時ご満座

○初夜……午後一時三十分

○報恩講布教 (十三日～十五日)

本願寺派布教使、本願寺輔教、教岸寺住職、岩橋成信 師

(四) 別院所属団体、講社合同参拝、十二日午後一時三十分から、

(五) 小樽幼稚園 若竹保育所・合同参拝

(六) 御伝鈔拝読、十三日 午前十時半 新光保育園、十五日 午後七時

(七) 双葉女子高等学校参拝、十五日午前九時、

(八) 御俗姓拝読、十六日、満日中法要に引続

(九) お斎……十六日、午前十時から正午まで、対面所

※お願い

十二日から十七日まで例年通り月忌まいを休ませていただきますのでご諒承下さい。

松川嘉太郎氏逝去

八月二十七日行年92才

謹しんでお悔み申し上げます。

本山参事、別院顧問

人生を語る

別院役員 榎本 巖



初秋の候報恩講... 厳修の季節門徒の皆様に...



別院仏婦会員 宮本武生子

「仏婦大会に出席して」七月十日後志組の...

頑張っています

別院承任 村上 隆昌



昭和二十九年小樽で出生、函館の福井、函館生れ故郷の小樽にお念仏と共に...



小樽幼稚園教諭 今井 広子

まるで新入園児のように入り混じった気持ちで飛びこんだ一年目...

説教所講社紹介

新光説教所 牧田佐太郎

昭和四十二年小樽西別院の新光保育園が開園せられた。この保育園を集合の場として...



新光保育園保母 佐々木裕紀子

私は、現在四才児を受け持っています。四才児は十九名です。...

昭和五十六年度 本願寺小樽別院教室 一般会計歳計決算

歳入合計七四、六四六、三九一円 歳出合計六八、〇六九、七〇九円 差引剰余 六、五七六、六八二円

Table with 4 columns: 歳入, 款項, 決算額, 予算額, 説明. Rows include 懇志, 回金, 本山交付金, 維持費, 冥加金, 雑収入, 前年度繰越金, 合計.

Table with 4 columns: 歳出, 款項目, 決算額, 予算額, 説明. Rows include 法務費, 教化費, 事務費, 会議費, 維持費, 積立費, 予備費, 合計.

転成



病のないのは第一の利(もうけ) 足るを知るのは第一の富 信頼あるのは第一の親しみ 悟りは第一の楽しみである (法句経)

別院 二百日参拝 追る

終了 眞実を求め 聖人のみ跡を 慕う

別院では昨年の百日参拝に続いて去る四月一日より二百日参拝を実施し、一人でも多くの方に朝のひととき、仏縁を深めていただきたく催されている。一口に二百日といっても容易なことではない、自然、家庭、自分の都合等、余ほどのご縁に恵まれない場合は、毎日毎日続けてのお参りは不可能である。いろいろな条件のなかから、現在百八十日を超え、十月十七日の二百日目を目ざしている方の芳名を記すと左記の通りの方々である。ご自愛のうえご相続のほど念じている。

連続参拝者の芳名(四月一日から九月末現在)。

- 加藤 福恵、白浜 千代
- 八ツ井 ヒサ、宮本 みい
- 滝沢 ハル、真田 テル
- 辻 初江、坪田 義政
- 坪田 節子、山本 辰
- 風間 毅、佐々木 アキ
- 三浦 スエ、三浦 幸子
- 三浦 タマ、高橋 ハルエ
- 野坂 房市、東田 アヤ

- 有田 フミ、嶋田 アイ子
 - 木戸 フサ、見楚谷 光子
 - 佐野 スエ
- 以上

夏期朝の人生講座 明年をめざし盛況裡に 終了

本年度初の行事として「夏期朝の人生講座」を開催した、従来のお寺の催を少し変え、小樽在住の著名人をお招きして人生を語っていただいた。



第一日目、八月二日、小樽市医師

会々長の野口暁先生をお迎えした、第二日目は、教育委員会委員長の嶋井捨市氏を迎えて教育を中心とした人生を語っていただいた。第三日目は、市長の志村和雄氏を迎えて、今までの歩みの一端を語っていただいた。それぞれ立場は異っており、それ故、ユニークな持ち味が如何なく発揮され、参加者一同感銘を深くした。明年は本年度の経験を踏えて、講師の選定はもとより、一人でも多くの参加者の出席を求め、早くから宣伝啓蒙に努めていくことにしている。

明日を開く

別院 日曜仏教講座 一周年記念集会

昨年九月第一日旺日から開催されてきた日旺仏教講座は、平素ご縁のうすい人を対象に、しかも、日旺日でなければ参加のできない方々に、日旺礼拝という意味も含めて開催されてきた、とくに、催の前後に仏教讃歌を入れ、礼讃文を一緒に称えて親しみやすくととの企画である。

一周年を迎え、一年間の歩みを参加者一同と語り合い、今後の講座に生かしていくようこころした。とくに参加者の中から、未だ難しいとの意見もでて参考になった、この一年の講話は根本仏教を中心に聞いていただいた。十月からは大乘仏教の六波羅密から共に学んでいくことになっている。九時三十分から十時三十分までの一時間、忙しい人ほど真理に耳を傾けていただきたいと願っている。

仏壮コーナー

別院仏教壮年会では過日組織の再強化を目ざして、創立総会を開催し、新規約の制定と事業計画並びに予算の審議を行い、新役員を選出、構成を確立して再発足した。

○新役員名

- 会長、小紙文隆、理事、中川良一、副会長、榎又巖、田中末一、田中修次、風間 毅、野坂房市、片桐康彦、監査、松山政衛、坪田義政、牧田定雄、
- 一、研修部、風間 毅
- 二、事業奉仕部、榎又 巖
- 三、厚生部、田中 修次

○仏壮活躍中、

別院本堂入口両脇壇天張はハトの糞害で困っていたがこのたび、仏壮の手により網が張めぐられ、糞害の苦痛から解放された、盆に参拝の門信徒一同、さすがは仏壮と感激していた。

● 仏婦コーナー

○別院仏婦では、本年度の事業を着実に実施してきているが、とくに、長崎の水害見舞募金には卒先して募金活動を展開多額の募金を連盟本部に送金した。

尚、仏婦連盟発足百五十年記念懇志としても多額の懇志を本部に送った、他、後志組研修、道研修等にも積極的に出席して会活動の展開を計っている。毎月二十七日例会日

● 仏青コーナー

別院仏青活動は若者の集りだけに行動も広く活発、毎週土旺の例会、別院行事の積極的参加、特に仏壮と共に盆の受付、案内の協力には参詣者も感銘、研修会も若者ならではの集りで仏青の輪を広げようとはり切っている。

具 具 具 具
具 具 具 具
具 具 具 具
具 具 具 具

仏壇のデパート(駐車場完備)

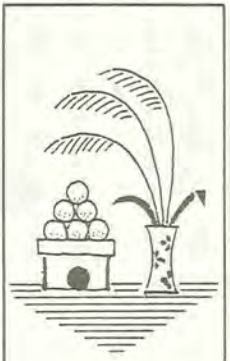
仏壇・仏具の
善光堂



感謝の心でご奉仕

合掌の心

- 札幌店 ☎011(221)4621
札幌市中央区南3条西2丁目
- 釧路店 ☎0154(22)4067
釧路市北大通り9丁目
- 旭川店 ☎0166(25)4036
旭川市2条12丁目左7号
- 営業所 盛岡/仙台/京都



秋こぬと目にはさやかに
見えねども

風の音にぞ
おどろかれぬる
(古今和歌集)

あなたとの話 「こころ」が聞きたい 豊かな人生をめざして

担当 教重文雄

問、仏滅の日に結婚式をあげると不縁になると。友引の日に葬式を出すと死者がつかえつてくる。といいますが本当でしょうか(小樽在住壮年)

答、暦に関係した問のようですが紙面のスペースがありませんので概略申します。

まず、室町時代(一三九四―一五七二年)に中国から渡来した「事林広記」という書物に書かれている「六曜説」から用いられた。現在では、日月火水木金土の「七曜説」を用いていますが、「六曜説」も「七曜説」もはじめは日の順序を示すものであったのです。現在の七曜には吉凶をつけないのに、ことさらに六曜を併用して日に吉凶をつけることが、そもそも間違いなのです。

室町時代の渡来時には次のようでした。大安、留連、速喜、赤口、小吉、空亡。

それが、徳川年間の寛政・享和(一七八九―一八〇三年)の頃になりまして、泰安、流連、則吉、赤口、周吉、虚亡。

音がよくにっていますから、口伝えしているうちに、このように変わったのでしよう。また、同じ時代に次のように変わっています。

別院ご門徒へのお知らせ

莊嚴豊かな
新納骨所落成
新納骨壇受付中

四、月忌まいりについて

当別院より毎月御門徒のみなさまのお宅へお詣りしておりますが、お留守のお宅があり、都合の悪い日、時間がありません。是非前日まで別院へお知らせ下さい。またご希望がございましたら申し出下さい。

五、報恩講懇志のお願い

よろしく進納願います。

六、護持費納入について

別院の営繕に用いられております。早目にお願います。

七、広告募集

係りの職員が伺いましたら是非ご協力願います。

後記

●新たな企画で夏朝期の人生講座を催した。三日間ではあったが期待していたほど多くは集まらなかった。前任地では期待どおりであったが、「所かわれば」の言葉どおり。そう甘いものではない?、明年をめざす。

●九月は敬老の月間、日本人も平均寿命がのびて、世界一の長寿国になった。しかし喜こんではかりいられない。老人にまつわる悲劇や苦悩が多く伝えられている。家庭、社会、老人自身の問題と、あまりにも大きな根の深い問題が山積している。筆者も日一日と老境に近づいている?。

●いよいよ報恩講シーズン。筆者の自坊も好天に恵れお陰さまで終了した。来年の報恩講は少し難しい。一年の私の歩みの決算が報恩講、全力投球だ。

- 一、新納骨所
新納骨所が去る九月二十五日別院会館を改装して入仏慶讃法要を営んだ。納骨壇使用希望者は別院事務所に申し込んで下さい。A、D型は使用者満杯で、BとC型をご利用願います。要領等別院迄お尋下さい。
- 二、説教所報恩講案内
(一)緑説教所
十月二日(土)午後一時から
午後六時三十分
- 三日(日)午後二時まで
- (二)新光説教所
十月三十日(土)午後一時から
三十一日(日)午後三時まで
- (三)奥沢説教所
十一月十三日(土)午後一時から
十四日(日)午後三時まで
- (四)若竹説教所、九月十八・十九日
終了す
- 三、本山参拝と秋の京都めぐり
「年一度は本山詣り」、の言葉通り来る十月二十日から二十三日まで三泊四日の行程で実施する。定員五十名、無理のない日程で行く。別院から輪番、西参勤が随行して案内をす。

◆永代経懇志芳名(四月中旬)

- 関谷勝男、蛭川正一、実川信義、朽木英一、古沢茂之、小島利徳、平田豊作、長谷川勉、三浦重隆、富田珠美、大沢和義、木戸良吉、上出芳久、堀久、赤石光子、滝本生正、増田チヨ、小西賢司、杉山実、加藤和子、浜田与吉、三井昭

以上御礼並御報告します。



陣内写真場

七五三・成人式・御婚礼・各種証明書用

年・中・無・休

●その他 写真のことなら何でも御引受け致します。

☎22-9231/33-6333

土木建築請負
設計・施工・監理

株式会社
カネタ田 中組

代表取締役 田中修次

小樽市稲穂五丁目十番十八号
TEL 三三一七五七五